

女山の玄武岩

大野地区の土居にある男山・女山は、付近の山と比べても独特な形をしています。実はこの男山・女山は、地中から噴出したマグマが冷えて固まったものなのです。

マグマといえば火山を連想しますが、ここに火山があつて噴火したわけではなく、マグマの通り道が地中奥深くにあり、それが今から約一〇〇(二〇〇)万年前の、新生代第四紀更新世と呼ばれる時代に、約一五〇〇万年前の新生代第三紀中新世に形



女山

成された地層(第三紀層)、つまり「大野の整合」を貫いて地上に突出してきました。そして、高温のマグマが冷えて固まり、軟らかい第三紀層の土砂が長い年月の間に浸食され、固いマグマの部分が残ったものが男山・女山なのです。

このマグマが固まった岩石を「玄武岩」といいます。玄武岩は冷えて固まる際に、体積の収縮によって独特のひび割れが生じることが特徴で、このひび割れのことを「柱状節理」といい、まっすぐに規則性のある石の柱のようなひびが何本も入ります。その断面は五角形や六角形を呈しており、江戸時代に現在の兵庫県の城崎温泉近くにある岩石の採掘



女山の玄武岩

場を訪れた学者が、亀の甲羅や蛇のうねりのように見える石柱群を、中国の伝説に出てくる亀と蛇が合体したような霊獣「玄武」に見立てて、この採掘坑道を「玄武洞」と名付け、明治時代に地質学者がこの石の日本名を制定するにあたり、「玄武岩」と名付けたことが名前の由来になります。

女山の頂上付近の東斜面でも、亀の甲羅のようにひび割れた玄武岩の断面を見ることが出来ます。幅三〇(四〇)cm前後の石柱の断面が規則的に重なる様子は、人工的に造られた切石の石垣のようでもあり、明治二十五年(一八九二・九三)に、町内に甚大な被害を及ぼした第一水



玄武洞(兵庫県豊岡市)

害・第二水害によって破壊された香々美川の堤防の修理の際には、女山の玄武岩が大量に切り出されて使用されたといわれています。玄武洞に近い城崎温泉でも、温泉街の石垣などに使われているのを見かけるように、硬質で形が整っている玄武岩は、石材として利用価値も高かったようです。

この男山・女山のように、玄武岩が周囲より高くなつて残っているものを「残丘」といいます。近隣ではこのような残丘が津山市・勝央町・美咲町にも存在するようですが、女山のように断面のひび割れが観察できる場所は県内でも珍しく、女山の玄武岩は町指定文化財(天然記念物)に指定されています。

なお、近県で有名な玄武岩の柱状節理は、前述の城崎温泉付近の他、島根県安来市の比婆山などでも見ることが出来ます。

このように、大野地区のシンボルである大野の整合や男山・女山は、日本列島の成因を知る上でも非常に特徴的で、しかも貴重な天然記念物でもあるのです。

参考資料:『鏡野町史』通史編、『岡山県地学のガイド』、『鏡野町の文化財』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733